

(別記)

弥彦村農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約 80%で、主食用米以外では大豆、枝豆の占める面積が多くなっている。

現在、主食用米の需要が減少する中、主食用米に替わる主要な作物である大豆、枝豆を中心に作付けを転換することで、水田面積の維持を図っている。また、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに、担い手不足という深刻な問題を抱えている。

2 作物ごとの取組方針

村内の約 870ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本とし、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

消費者から信頼される良質米生産地の確立を目指し、安心・安全、高品質・良食味米の安定生産を推進するとともに、消費者ニーズに即応した特別栽培米を中心とする環境保全型稲作を進め、高付加価値を推進する。

また、近年の米価下落に対応すべく、枝豆を中心とした転作作物の生産推進に重点を置く。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

水田で生産される米を畜産飼料として安定的に活用できる状況を実現することは、稲作・畜産経営にとって好ましいことであるとともに加工用米や備蓄米生産から移行し増産する作物として、産地交付金を活用しながら生産の拡大を図る。

イ 米粉用米

輸入小麦にかわるものとして流通業界や消費者より重要視されており、産地交付金を活用しながら生産の拡大を図る。

ウ 加工用米

需要者からの安定的・計画的な原料供給に対するニーズに応じるべく、加工用米の需要に応じて複数年契約の取組も進めながら生産を推進する。

エ 備蓄米

稲作の施設・機械を利用できることや米農家の生産意欲の維持にもつながることから、産地交付金を活用しながら買入数量に応じた作付けを推進する。

(3) 大豆

水田利用の重点作物として位置付け、収量の安定と品質向上に努めるとともに、生産効率の向上に向けて団地化を促進する。

(4) 野菜

村の特産品である「枝豆」は、ブランド品目として消費者に高く評価されていることから、今後も特産地として、生産の拡大と品質向上に努めるとともに、「ねぎ」、「アスパラガス」、「いちご（越後姫）」等をブランド品目として位置付け、生産の維持・拡大を図る。

また、「きゅうり」、「メロン」等、ブランド品目以外の作物についても今後の産地化を目指し、生産の維持・拡大を図る。

(5) 果樹

「西洋なし」、「日本なし」、「ぶどう」、「かき」等をブランド品目として位置付け、生産の維持・拡大を図る。

また、「うめ」、「キウイフルーツ」等、ブランド品目以外の作物についても今後の産地化を目指し、生産の維持・拡大を図る。

(6) 花卉・花木類、雑穀、その他作物

「チューリップ」、「ユリ」、「アザレア」をブランド品目として位置付け、生産の維持・拡大を図る。

また、「ストック」、「ケイトウ」等、ブランド品目以外の作物についても今後の産地化を目指し、生産の維持・拡大を図る。

(7) 不作付地の解消

不作付地の解消については、枝豆等の作付けを推進しながら、平成 28 年度目標として現在よりも不作付地の面積が増加しないように最善の努力を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 27 年度の作付予定面積 (ha)	平成 28 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	638.1	611.6	597.9
飼料用米	0	13.9	14.0
米粉用米	0	6.0	6.1
WCS用稲	0	0	0
加工用米	34.3	29.9	35.0
備蓄米	53.6	54.3	54.9
麦	0	0	0

大豆	40.7	38.4	40.9
飼料作物	0	0	0
そば	7.2	5.1	5.9
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	53.8	50.35	56.6
枝豆	25.7	25.25	26.7
その他野菜	22.1	20.3	22.2
果樹	2.9	2.1	3.0
花卉・花木類	3.1	2.6	4.6
雑穀・その他	0	0.1	0.1

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組番号	対象作物	取組	分類※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 27 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)
1	大豆	1ha 以上の団地化	イ	団地化を行った農業者の作付面積	33.5ha	30.0ha	33.6 ha
2	枝豆	枝豆の生産拡大	ア	作付面積	25.7ha	25.25ha	26.7ha

※「分類」欄については、要綱（別紙 16）の 2（5）のア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。
（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組の記号をいずれか 1 つ記入して下さい。）

- | |
|---|
| <p>ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組</p> <p>イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組</p> <p>ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組</p> |
|---|

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり